

第 292 回 日本皮膚科学会岡山地方会

◇専門医後実績 機構認定専門医制度（新専門医制度）の方

（重要）単位付与の受付時間がセッション開始30分前～開始15分後までとなりました（日本皮膚科学会理事会において決定）。

皮膚科領域講習

- ・ 13：30-14：15の間に受付された方は，1単位（皮膚科領域講習）（一般演題1）取得できます。
- ・ それ以降に受付された方は，単位取得できません。

学術業績

- ・ 13：30-14：15の間に受付された方は，1単位（学術業績）取得できます。（ただし1年で2単位，5年で6単位まで）

WEB参加の方法と単位認定については，別紙をご参照ください。

日 時 2024年4月27日（土）14時00分

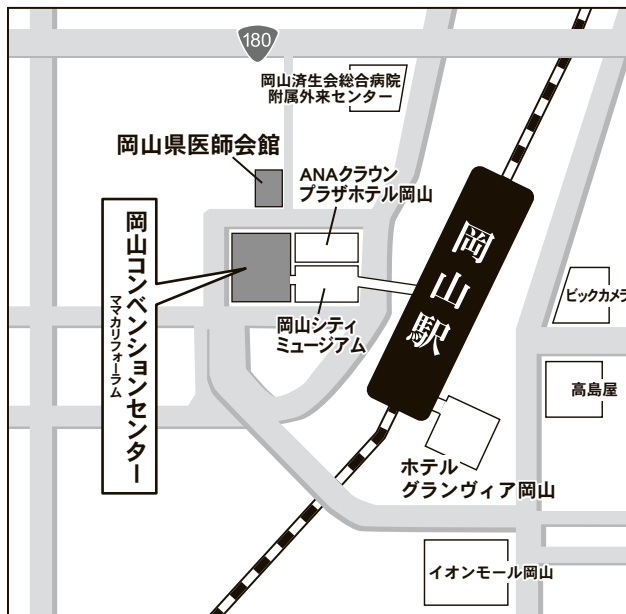
場 所 岡山コンベンションセンター
3F コンベンションホール
岡山市北区駅元町14-1
TEL.(086)214-1000

岡山大学医学部皮膚科学教室同門会役員会

2024年4月27日(土) 13:15より

岡山コンベンションセンター 4F 401会議室

地方会終了後、同門会総会ならびに懇親会を開催いたします。



地方会会場：岡山コンベンションセンター

J R 岡山駅中央改札口より徒歩3分

Let's MICE
MICE : Meeting Incentive Convention Exhibition

岡山コンベンションセンター
ママカリフォーラム

〒700 0024
岡山市北区駅元町14番1号
TEL. 086-214-1000
FAX. 086-214-3600
E-mail: occ-info@mamakari.net

<http://www.mamakari.net>

I 一般演題 1 (発表…6分, 討論4分) (時間厳守をお願いします)

(所属は抄録提出時のものです)

14:00~

座長: 杉本佐江子 (中国中央)

1. circumscribed palmar hypokeratosisの1例

○辻野美緩 (つじの みひろ), 長尾僚祐, 篠倉美理, 吉富恵美, 荒川謙三 (岡山済生会)
71歳, 女性。初診1年前より自覚症状なく右手の皮が剥けており, ステロイド軟膏を外用したが改善しなかった。右母指球部に周囲の健常部よりわずかに陥凹する10mmの境界明瞭な類円形の紅色局面を認めた。病理組織学的には健常部から病変部にかけて角層が階段状に菲薄化していた。circumscribed palmar hypokeratosisと診断しサリチル酸ワセリンの外用を開始したが不変である。

2. 苔癬様型皮膚サルコイドの1例

○徳田真優 (とくだ まゆう), 下宮大輝, 衣斐菜々, 大谷稔男 (倉敷中央)
63歳, 男性。背部を中心に自覚症状のない紅色丘疹が, 一部, 環状の配列を呈して多発した。皮膚生検では, 真皮浅層から中層に肉芽腫が多数みられた。苔癬様型皮膚サルコイドと考えた。血液検査でACEやsIL-2Rの値は正常範囲内であった。眼科診察でぶどう膜炎はみられなかったが, 網膜出血を認めた。両側肺門縦隔リンパ節腫脹はなく, 心臓MRIで遅延造影の所見はなかった。ステロイドの外用のみで経過観察している。

3. ペムブロリズマブ投与中に発症し扁平苔癬様皮疹が先行した水疱性類天疱瘡の1例

○山下珠代 (やました たまよ), 佐藤志帆, 齊藤まり (三豊総合)
85歳男性。腎盂癌に対しペムブロリズマブ投与2週後, 手背を中心に扁平隆起性の紫紅色斑が出現。扁平苔癬型薬疹と考え, ステロイド外用にて経過観察。投与28週後, 体幹四肢に浮腫性紅斑と緊慢性水疱が出現, 組織で好酸球浸潤を伴う表皮下水疱を呈し, 抗BP180抗体陽性であった。以上よりペムブロリズマブによる水疱性類天疱瘡と診断。ペムブロリズマブを中止しステロイド全身投与にて改善。ステロイド中止後も, 抗腫瘍効果を得ている。

4. ペムブロリズマブ投与後に生じた水疱性扁平苔癬の1例

○池澤勝吾 (いけざわ しょうご), 横溝紗佑里, 藤田周作, 石浦信子, 浅越健治 (岡山医療センター), 丸中秀格 (同耳鼻いんこう科)
60代, 男性。1年11か月前, 進行期耳下腺癌に対してペムブロリズマブを投与するも腫瘍は増大し, 10か月前よりハーセプチン+ドセタキセル療法に変更。8コース施行後, 四肢中心に水疱を伴う紫紅色局面を生じた。組織では表皮下水疱と真皮浅層の帯状リンパ球浸潤を認め, 蛍光抗体法直接法/間接法, 抗BP180抗体は陰性。ペムブロリズマブによる水疱性扁平苔癬と考えた。PSL 20mg/日にて寛解し漸減中。

5. 当初蜂窩織炎様の症状を呈し、その後下腿潰瘍が多発した皮膚クリプトコッカス症

○光井聖子（みつい せいこ）、加藤あずさ、高須賀琴巳、馬屋原孝恒（岡山赤十字）、
奥 格（同内科）

80代、女性。血管炎にてPSL長期限内服中。慢性腎臓病、慢性心不全あり。発熱、下肢の発赤、膿汁を伴う皮膚潰瘍あり、抗生剤加療を行うも反応せず。創部培養から *Cryptococcus neoformans* を検出。皮膚病理組織にて、多核巨細胞を伴う肉芽腫を認め、Grocott染色にて酵母状の真菌を確認し、皮膚クリプトコッカス症と最終診断した。ホスフルコナゾール、アムホテリシンBにて加療するも潰瘍は拡大、徐々に全身状態が悪化し永眠された。文献的考察を加えて報告する。

6. 陰部潰瘍、顔面・四肢の水痘様皮疹から診断したMpox県下初確認症例

○宮脇秀徳（みやわき ひでのり）、日置紘二郎、杉山聖子、青山裕美（川崎医大）

39歳、男性。HIV感染症で当院血液内科通院中。定期受診時に陰部潰瘍があり、性器ヘルペスの疑いでACV投与されるが改善せず当科受診。包皮に地図状潰瘍あり、顔面、四肢に周囲に紅暈を伴い中央に痂皮を付す丘疹、水疱が多発していた。陰部痂皮よりPCR施行しMpoxと診断。県内初の陽性確認例であった。対症療法のみで改善。発症2週前に複数人で同性間性的接触があった。RPR (-)、尿中クラミジアPCR (-)。

7. 手指の梅毒性下疳と診断した2例

○高須賀琴巳（たかすか ことみ）、加藤あずさ、光井聖子（岡山赤十字）、
都地友紘、田村麻衣子（同病理診断科）、香曾我部純子（玉野市）

症例1：20代、男性。建築業、左利き。1か月前より左中指後爪郭の潰瘍が生じた。左腋窩リンパ節腫脹あり。全身への皮疹出現なし。症例2：20代、男性。社会人野球所属、右利き。右中指に無痛性潰瘍を認め難治であった。いずれもTP、RPR陽性で手指の梅毒性下疳と最終診断した。症例1は免疫組織化学染色で *treponema pallidum* 陽性であり診断に有用であった。難治性皮膚潰瘍の場合、指尖であっても梅毒を鑑別に挙げるのが重要と考えた。

8. *Trichophyton rubrum*による左前腕白癬菌性肉芽腫の1例

○奥村健悟（おくむら けんご）、杉山聖子、山本剛伸、青山裕美（川崎医大）、
岡 大五（倉敷市）

79歳女性。リウマチ性多発筋痛症に対しPSL10mg/日内服中。糖尿病あり。2か月前より左前腕に小膿疱、面皰の多発する紅色局面を形成。膿疱内容KOH、皮膚生検で多数の菌糸を認め、真皮内肉芽腫形成を認めた。血中 β Dグルカン20.4pg/mL。生検組織膿、爪の真菌培養で *T. rubrum* を同定、右手爪白癬から搔破で生じた白癬菌性肉芽腫と診断。抗真菌薬内服のみでは面皰が残存したがPSL減量により消退。

9. 岡山県内の柔道，レスリング部員を対象とした Tt 感染症調査報告 (2023年度版：第14報)

○三浦由宏（みうら よしひろ）（倉敷市）

大学柔道117人，高校柔道115人，高校レスリング28人に加え小中学生柔道34人の計294人を対象にヘアブラシ法を行った。保菌率は大学男子柔道8.1%，高校男子レスリング12%と前年度から増加，大学女子柔道1.8%と前年度から減少した。高校柔道，高校女子レスリングに保菌者はいなかった。全体の保菌率は3.7%と前年度より減少した。コロナが5類になり高校柔道の集団検診が4年ぶりに再開できた。

座長：岡崎布佐子（岡山市立市民）

10. 持続性紅斑を伴った全身型若年性特発性関節炎の1例

○石浦信子（いしうら のぶこ），池澤勝吾，横溝紗佑里，藤田周作，浅越健治
(岡山医療センター)，樋口洋介，古城真秀子（同小児科），人見浩介（同小児外科）

13歳，男児。2週間続く発熱を主訴に当院小児科に入院。体幹四肢に掻痒の強い浮腫性紅斑がみられ，解熱時も消退しなかった。左足関節痛あり。CTにて多発リンパ節腫大，肝脾腫を認めた。理学所見，検査所見，リンパ節生検結果より全身型若年性特発性関節炎（sJIA）と診断。持続する紅斑の皮膚生検にて表皮上層の個細胞壊死と基底層の空胞変性を認め，sJIAに伴う非定型疹と考えた。ステロイド全身投与により症状軽快。

11. 神経根症による下腿筋仮性肥大とうっ滞性皮膚炎を呈した1例

○日置紘二郎（ひき こうじろう），杉山聖子（川崎医大），逸見祥司（同神経内科），青山裕美（川崎医大）

85歳男性。初診の50年以上前に腰痛と下肢の運動障害が出現。初診半年前から右下腿に腫脹と疼痛が出現。下腿のMRIでは腓腹筋とヒラメ筋がT1WI高信号/脂肪抑制T1WI低信号を示し，皮膚・筋生検では筋線維は脂肪組織に置換され，真皮は静脈うっ滞性の変化が見られた。腰椎MRIでは第4-5腰椎で脊柱管狭窄の所見を認め，神経根症状によって生じた腓腹筋とヒラメ筋の仮性肥大及びうっ滞性皮膚炎と診断した。

12. 関節リウマチと自己免疫性肝炎に合併した壊疽性膿皮症にアダリムマブを投与し植皮術を施行した1例

○砂川 滉（すながわ こう），梶田 藍，佐藤由規，村田愛美，神野泰輔，立花宏太，森実 真（岡山大），前田恵美，栗林怜実，勝山恵理（同リウマチ膠原病内科），藤井江利子（倉敷第一），澤井希望，岡崎布佐子（岡山市立市民）

60歳代女性。併存症として関節リウマチと自己免疫性肝炎に伴う非代償性肝硬変あり。約1年前に左下腿に潰瘍が出現，PSLやMTXを増量し加療されるも徐々に拡大。X年5月，前医で植皮術が施行されたが全脱落し当院へ紹介。左下腿ほぼ全周に辺縁が隆起する壊死性潰瘍あり。病理は血管炎所見乏しく真皮，皮下の膿瘍と肉芽組織が混在。壊疽性膿皮症として入院17日目にアダリムマブ開始。38日目に分層メッシュ植皮術施行。

13. SAPHO症候群の1例

○竹中美結（たけなか みゆう）、川上佳夫、森実 真（岡山大）、中原龍一（同整形外科）、濱田利久（国際医療福祉大）

16歳，男性。12歳時より顔面にざ瘡様の皮膚病変が出現し，次第に悪化したため当科を受診した。ドキシサイクリンで症状は軽快したが，休薬後に下顎部全体に膿疱・痂皮を伴う紅色結節が多発した。皮膚症状はレボフロキサシン内服で改善し，長期経口ドキシサイクリン療法で安定した。20歳時に胸鎖関節部の腫脹と疼痛が出現した。メトトレキサート単独では効果が不十分であったため，アダリムマブをadd-onし，疼痛は軽快した。

14. 蜂窩織炎と鑑別を要した痛風発作の1例

○荻原優人（おぎはら ゆうと）、榎野かおり（尾道市立市民）、木曾洋平（同整形外科）

65歳，男性。高尿酸血症がありフェブキソスタット内服中。2日前から食欲低下と発熱があり当院皮膚科を受診。右手関節，右肘関節，左足関節に淡い紅斑腫脹を認めた。蜂窩織炎として入院後抗菌薬点滴を開始したが，翌日左足関節穿刺を実施したところ尿酸Naが検出され，多発結晶誘発性関節炎と診断した。抗菌薬は5日で終了し，非ステロイド性抗炎症薬内服とステロイドの関節内注射により症状は改善した。

座長：加持達弥（広島市立広島市民）

15. 左腋窩汗腺癌術後に発生した左上腕Stewart-Treves症候群の1例

○道満ゆとり（どうまん ゆとり）、神野泰輔、浦上仁志、蓮井謙一、藤本裕子、立花宏太、森実 真（岡山大）、加藤 基（同形成外科）、中田英二（同整形外科）

73歳，男性。X-6年，左腋窩汗腺癌に対する拡大切除術＋左腋窩リンパ節郭清術＋術後放射線療法を施行。その後左上肢にリンパ浮腫出現し，寛解増悪を繰り返していた。X年2月頃から左上腕内側に浸潤触れる暗紅色斑が出現した。皮膚生検の結果脈管肉腫の所見であり，Stewart-Treves症候群と診断した。腫瘍の拡大切除と遊離前外側大腿皮弁による再建を行い，現在Weeklyパクリタキセル投与中である。

16. Nipple adenomaの2例

○長尾僚祐（ながお りょうすけ）、辻野美緩、篠倉美理、吉富恵美、荒川謙三（岡山済生会）

50歳，女性。左乳頭の紅色結節，出血を主訴に来院。ステロイド外用で改善なし。皮膚生検でnipple adenomaと診断。切除希望あり，結節部切除し経過観察中。55歳，女性。X-6か月より右乳頭にびらん。前医乳腺外科でマンモグラフィ，針生検を行い異常なし。ステロイド外用で改善ないためX年当科紹介受診。右乳頭外側，小指爪甲大の浸潤触れない紅色斑。皮膚生検でnipple adenomaと診断。切除希望なく当院乳腺外科にて経過観察中。

17. G-CSF・PTHrP産生胸部有棘細胞癌の1例

○池田賢太（いけだ けんた）、梶田 藍（岩国医療センター）、青 雅一、濱田龍正、高野英実（同形成外科）

94歳女性。数年前から胸部皮膚腫瘍を自覚するも受診せず放置していた。独居で生活していたが1週間前より食事摂取不良となり、意識障害（JCSII-30）で当院へ救急搬送された。左前胸部から左肩部にかけて巨大なカリフラワー状腫瘍あり、白血球数42,700/ μ L（好中球94.6%）、血清Ca値14.3mg/dLであった。有棘細胞癌T3N0M0 StageⅢおよび腫瘍随伴症候群と考えられた。腫瘍切除後に意識障害や好中球増多、高Ca血症は改善し、血清G-CSF・PTHrP値の低下を確認した。

18. 組織学的にXanthogranulomaと鑑別を要した下腿に生じたLipidized Fibrous Histiocytoma

○別所史健（べっしょ ふみたか）（川崎医大総合医療センター、川崎医大）、浦上揚介、深松紘子、山本剛伸（川崎医大総合医療センター）、秋山 隆（同病理科）

61歳男性。10年前から左下腿に腫瘤が出現し、徐々に増大したため受診。左下腿伸側にドーム状に隆起する境界明瞭な10×10mm大の茶褐色結節を認め、下床との癒着は認めなかった。表皮肥厚と真皮浅層から中層にかけて紡錘形細胞と泡沫細胞の集塊を認め、免疫染色による検討を含めLipidized fibrous histiocytomaと診断した。組織学的にXanthogranulomaと鑑別が必要となるが、免疫染色（特にCD4、LCA）が有用である。

Ⅱ 特別講演

17:00～

座長：森実 真（岡山大）

「ヒト乳頭腫ウイルスによる皮膚腫瘍」

清水 晶 教授（金沢医科大学皮膚科学講座）

Ⅲ 岡山大学医学部皮膚科学教室同門会総会

総会終了後、同門会懇親会を開催いたします。

場 所：岡山コンベンションセンター2F レセプションホール

懇親会会費：5,000円

釣銭のいらないようにご協力お願い申し上げます。

当日地方会会場受付にて徴収します。

領収書の必要な方は、ご希望の宛名を明記の上、メール又はFAXにて

事前に事務局までお知らせください。

第 293 回 日本皮膚科学会岡山地方会演題募集

日 時：2024 年 9 月 1 日（日） 13：00 より

会 場：岡山コンベンションセンター

演題締切：2024 年 6 月 23 日（日） 必着

出題方法：出来るだけメールにて事務局アドレスまでお申し込みください。

- 件名は「岡山地方会演題申込み」とご記入ください。
- 演題締切日以後、3 日を経過しましても受領確認メールが届かない場合は、必ずお問い合わせください。

プログラム用抄録兼日皮会誌用抄録：様式は問いませんが下記要領を厳守の上、Word にて作成しメールに必ず添付してください。

- 抄録用紙に「スライド供覧」「一般演題」の別を明記。
- 題目：字数制限なし。 ◦ 本文：200 文字以内
- 演者名：口演者に○印。姓名の間にスペースを入れない。但し姓または名が一文字の方は○スペース○○，○○スペース○とする。
- 所属：「病院」は省略。（○○）（岡山大）（同内科）（岡山市）等。
- 英字表記：半角で記入。題目、本文中の固有名詞、菌名（必ずイタリック体）以外はすべて文頭でも小文字。
- 数字：算用数字を使用（…の 1 例。65 歳。）

《見本》

一般演題

……………の 1 例

○岡 一郎, 岡山 一, 岡山二郎（岡山済生会）, 岡山花子（同内科）
65 歳, 男性。……………。《見本》

事務局：〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野内

日本皮膚科学会岡山地方会事務局

e-mail：dermaok-npo@cdo.sakura.ne.jp

FAX：050 - 3488 - 8350

【お知らせ】

1 月は現地開催のみです！

第 294 回 日本皮膚科学会岡山地方会

2025 年 1 月 18 日（土） 14：00（予定）

岡山コンベンションセンター